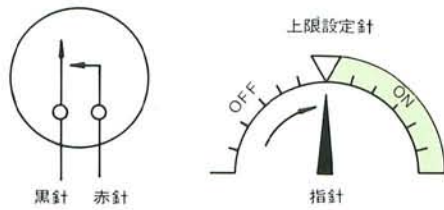
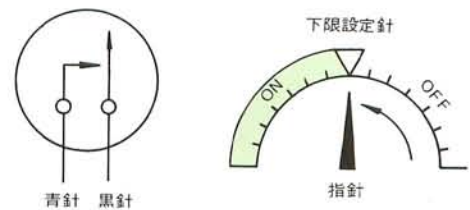


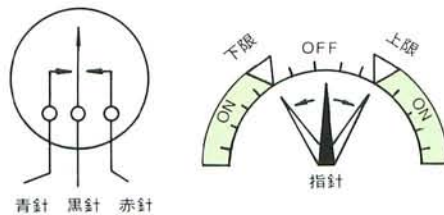
●上限1接点式 上昇してON



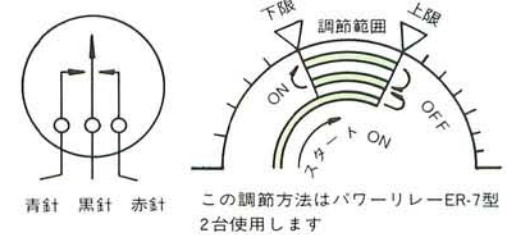
●下限1接点式 下降してON



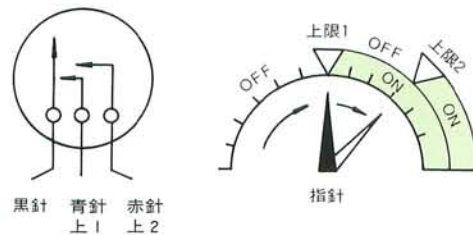
●上・下2接点式 上昇又は下降してON



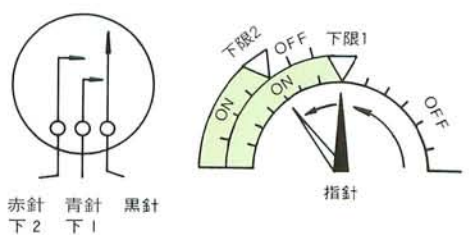
●上・下2接点キープリレー方式



●上・上2接点式 上昇時2段階にてON



●下・下2接点式 下降時2段階にてON



各種接点方式 比較表

	特 徴	欠 点
コンタクト接点 P 13~18, 20	<ul style="list-style-type: none"> ●接点入切精度が高い。 ●接点の点検, 保守がしやすい。 ●無電圧スイッチ。 ●価格が安い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●接点容量が小さい。 ●接点投入時にチャタリングが発生しやすい。 (専用補助リレーER-7型で対応) ●振動の有る場所には不向。
マイクロ接点 P 21~22	<ul style="list-style-type: none"> ●接点容量が大きい。 ●接点の耐久性が優れている。 ●多少の振動に強い。 ●無電圧C接点内蔵。 	<ul style="list-style-type: none"> ●接点に接断差が有る。(F.S 3~5%) (但し接断差を利用して温調が出来ます。) ●温度設定はその都度ケースのフタを開けて行なう。
光電スイッチ P 23~24	<ul style="list-style-type: none"> ●非接触接点の為, 接点に誤動作が無い。 ●接点疲労が無い為, 長寿命である。 ●多少の振動に強い。 ●シーケンサーに直結可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ●接点に接断差が少し有る。(F.S 0.5%) ●操作電源が必要。 ●温度設定はその都度ケースのフタを開けて行なう。
パワー温度調節計 P 19	<ul style="list-style-type: none"> ●簡単な配線で正確な温調が出来る。 ●文字板が大きい為に見やすく, ON・OFF表示燈が組込んである。 ●温調設定がしやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●操作電源が必要。 ●計器の大きさが125φ型のみ。